

陳述書

平成 18 年 5 月 10 日

本籍

住所

職業 版画家（木版）

氏名

記

- 1、このたび私こと において、陳述書を提出することをお許し願います。
- 2、私は元公立中学校社会科教師で現在は退職し木版画の製作をしています。1987 年(昭 62) 4 月杉並区立和田中学校より練馬区立中村中学校へ赴任し、そこで疋田哲也教諭と知り合いました。私は 3 年生所属となり疋田さんと同じ学年となりました。また校務分掌は生活指導部となってこれも疋田さんと同じ分掌です。疋田さんは翌年他校へ転勤されたので一緒に勤務したのは 1 年間だけでしたが、同じ学年、同じ分掌、また席も隣だったため、その働きぶりや人柄はよく知っています。
- 3、学校の教師の仕事は授業ばかりでなく、学校行事、クラス事務、クラブ活動など多岐にわたります。それらは公平に分担される訳ではありません。たとえば小さな子どものいる女性の教師の場合は普通負担が軽くなるよう考慮されます。

当時の疋田さんは 3 年のクラス担任、男子テニス部と軽音楽部の顧問、文化祭の学校全体の責任者など、また学年内においては修学旅行や卒業式の実行委員会などの担当でした。つまり学校全体の、学年の非常に重要な仕事をこなしていました。たとえば修学旅行などの実行委員会担当だと生徒と一緒に活動するばかりでなく、学年会や職員会議に提出する企画書を作成したりもします。膨大な仕事の量をまさにブルトーザーのようにこなす姿が印象的でした。教師の仕事は授業の準備、クラス事務などただでさえかなり忙しいのですが、疋田さんの仕事の量は特別多く彼の机の上は書類などで山のようになっていました。それは一見ごちゃごちゃと乱雑のように見えますのですが、必要な書類は必要な時にヒョイと取り出しているのを見てビックリしたのを覚えています。

学年の生活指導の中心も疋田さんでした。当時の中村中の 3 年は全体的には結構落ち着いていたのですが、一部には問題行動を起こす生徒もいました。疋田さんはそういう生徒たちの相談にも積極的にのり、その保護者の方たちからも深く信頼されていました。クラスのある男子生徒が家出した時には仕事の後 7 ヶ月もの期間、毎晩のように中村橋界隈から埼玉の方までほとんど徹夜に近い状態で必死に探し回ったこともあります。

- 4、また疋田さんは文化祭の時には、軽音楽部やクラス演劇の指導をやっていました。この時私も学年有志の生徒の演劇の指導をしました。それでこの時のことはよく覚えています。芝居をつくっていく時は当たり前ですが大道具、小道具、衣裳などいろいろ

入り用なものがいっぱいあります。それらの中にはまた次年度以降も使えるものが少なからずあるのです。疋田さんはそれらを理科準備室あたりに置いていました。疋田さんは生徒思いで生徒のために非常によくがんばっていましたが、そればかりでなく同僚のこともよく考えてくれていました。私の中村中へ赴任した時などみんなの輪に入りやすいようさりげなく気配りのできる人でもあります。そういう人柄なので当時疋田さんは学校全体の親睦会の幹事もやっていました。

- 5、前述しましたように学校の教師の仕事は多岐にわたり普通にやってもかなりの量になります。クラブ活動などでは事故の心配もあり教師がずっとついているのが理想ですが、実務的な仕事も多くなかなかそうもいきません。そういう中で疋田さんはできる限り生徒について指導していました。個人の実務的な仕事は生徒を帰した後、夜遅くまで学校に残って、或いは自宅へ持ち帰ってやっていました。
 - 6、現代の社会状況の中で学校の教師というのはなかなか大変なものがあります。生徒のため熱心がんばっている教師が簡単に辞めさせられることがあってはならないと私は思います。
-